

総合計画／実施計画書 兼 事務事業評価シート

事業期間 H21 ～ H23

担当部局	部局名	教育委員会
	課室名	生涯学習課

1. 基本施策名等（基本計画における「基本施策名」等を記入）		
基本施策ID	基本施策名	
5 - 1 - 1	いつでも学べる場と機会をつくる	
重点施策ID	重点施策名	
5 - 1 - 1 - 3	図書館サービスの充実	

2. 事業名等			
事業名	図書館読書推進事業	事業区分	② ①新規 ②継続 ③その他 ()
細事業名	移動図書館事業	実施形態	① ①毎年 ②隔年 ③その他 ()
事業主体	市	①	①直営 ②指定管理 ③委託()
事業種別	① ①自治事務 ②法定受託事務	③	④その他 ()
実施期間	平成 18 年度 ～ 平成 23 年度	根拠法規	図書館法
各種の計画への反映 (=根拠計画)	豊後大野市総合教育計画・豊後大野市社会教育計画		事業ID

3. 事業の内容等			
事業の背景 文部科学省から、社会や制度の変化、図書館活動の意義の理解促進、これからの図書館運営に必要な新たな視点や方策等について提言がなされている。幼少期の読書体験が将来の人格形成に重要な意味を持つことから、子どもたちが読書に親しむ機会と場を設定していくとともに、関連施設との協力・連携及び移動図書館の館外サービスを強化し、図書館奉仕業務の充実に努める。	補助事業	名称	
		補助率	国 1/ 県 1/ その他 1/
	起債の類	①	
		②	
		③	

事業の目的及び対象	事業概要
【目的】 図書館施設の補完的機能を担う移動図書館は、遠隔地の幼児・児童に対して図書貸出しの機会を多くし、子ども読書推進の拡大を目的とする。	移動図書館事業 本館の補完的役割を果し、遠隔地の利用者の利便性を確保するため、シルバー人材センターに運行委託を行う。 ●事業費 (880千円)
【対象】 幼児・児童・職員・近隣市民	前年度の評価 評価結果に基づき見直した内容
	E 維持

4. 予算・決算の状況 (単位：千円)								
財源内訳		H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23～
予算	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源		1,764	1,966	1,796	1,997	1,796	1,997
	計		1,764	1,966	1,796	1,997	1,796	1,997
決算	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他							
	一般財源		1,642	1,800	880			
	計		1,642	1,800	880			

5. 実績及び達成目標等			
過去3年間の事業実績と課題			
平成18年度	平成19年度	平成20年度	課題
【実績】 貸出冊数 11,651冊 貸出人数 4,584人 巡回場所 16箇所	【実績】 貸出冊数 10,554冊 貸出人数 4,084人 巡回場所 13箇所	【実績】 貸出冊数 8,817冊 貸出人数 3,340人 巡回場所 15箇所	

達成目標と前年度までの進捗状況……事業成果の目標となる指標と目標数値												
活動指標	移動図書館の運行回数											
効率指標	-											
成果指標	① 貸出冊数 ② 貸出人数											単位 冊・人
年度	H 17	H 18		H 19		H 20		H 21		H 22		備考
種別		①	②	①	②	①	②	①	②	①	②	
目標値				10,554	4,084	10,604	4,094	10,654	4,104	10,704	4,114	
実績値		11,651	4,584	10,554	4,084	8,817	3,340					
達成率				100.0%	100.0%	83.1%	81.6%					
備考												

総合計画／実施計画書 兼 事務事業評価シート

評価対象年度 H20 年度

評価実施年度 H21 年度

担当部局	部局名	教育委員会
	課室名	生涯学習課

6. 前年度の事業評価				評価に関する視点	
事業の 必要性	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	5	時代や市民ニーズの変化への対応、事業目的の緊急性、重要性、さらには他の自治体の動向等を踏まえて評価する。	
理由	図書館から遠い地域に在住する幼児、児童を中心とした巡回ステーション近隣の市民に対し、移動図書館車搭載資料の充実を図り、図書館サービスの提供に努めているため。				
行政の 関与	1 2 3 4 5 不要 ← → 必要	評価	5	この事業は行政が実施しなければならない事業なのか、民間でサービスを提供できないのか等、民間との役割分担を考慮して評価する。	
理由	図書館法・総合教育計画等に基づいて、市が実施すべき事業であるため。				
手段の 妥当性	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	3	行政がこの事業を行うこととした場合、事業実施の方法は妥当か、効率的な方法なのか等、外部委託や受益者負担等を含めて評価する。	
理由	遠隔地域に対して、現段階では移動図書館を使ったサービス手法が妥当であるため。				
事業の 効果	1 2 3 4 5 低い ← → 高い	評価	4	事業の効果は上がっているのか、事業は効率的に実施できたのか、事業経費は事業実績と比べてどうか等、費用対効果も含めて評価する。	
理由	小学校・幼稚園への巡回を行っているが、利用率が高いため。				
事業の 算	1 2 3 4 5 減額 ← → 増額	評価	3	全ての行政経費の削減が求められる中で、予算を減額できないか、できないのであればその理由はなぜか等、事業経費の面について評価する。	
理由	本館の補完的事業であり、現状維持が妥当であるため。				
人 体 制	1 2 3 4 5 減員 ← → 増員	評価	3	事業経費と同様、職員全体を削減せざるを得ない状況の中で、組織の見直し、グループ制の活用、外部委託等の様々な手法を含めて評価する。	
理由	運転業務については、シルバー人材センターへ委託しているため。				
事業 規模	A B C D E F 廃止 終了 統合 縮小 維持 拡大	評価	E	今後の事業規模の方向性について、事業の必要性、緊急性、事業経費や担当職員数の増減等を検討し、社会情勢や市民生活への影響等も十分考慮した上で、事業全体としてどのような方向へ進めていくのかを総合的に判断する。	
理由	利用者への平等な図書館サービスのために、今後も必要な事業である。				
その他、特記事項	事業の内容や事業規模に関する意見、補足説明、事業改善の方向性等、特記すべき事項を記載する。				
※ 平成20年度の図書館総合システムの導入に伴い、移動図書館が出先での即時予約対応を図れるようになった。					
※ 現在、市内の幼稚園・小学校を月1回巡回しているが、巡回回数を月2回にとの声や、保育園等からの巡回希望も多く、今後の検討課題である。					
部 長	課 長	班 長	担 当 者	内線 E-mail @bungo-ohno.jp	